

## 東京都地方独立行政法人評価委員会 平成18年度第4回試験研究分科会

1. 日時：平成18年11月17日（金） 13時30分から15時30分まで
2. 場所：東京都庁第一本庁舎 42階北側 特別会議室C
3. 出席者：板生委員、井上委員、泉澤委員、鞠谷委員、松本委員
4. 議題：1 報告事項 （1）産業技術研究センター平成18年度上半期事業報告について  
2 審議事項 （1）産業技術研究センターの各事業年度に係る業務実績評価（年度評価）の考え方について  
3 その他

### 5. 議事概要：

#### （1）産業技術研究センター平成18年度上半期事業報告について

産業技術研究センターより平成18年度上半期事業報告について説明。

【質疑応答・委員意見】 ※太字ゴシックが委員意見

#### ・ **コーディネート事業は具体的にどのようなことを行っているのか？**

⇒ 分野ごとに5名の外部専門家に依頼して、中小企業からの相談とアドバイス、大学等との調整などを行い、産学連携のマッチングと共同研究の推進を図っている。

#### ・ **基盤研究の人材確保で、来年の新卒者獲得に向けた動きはあるか？**

⇒ トライしているが、難しい。公募だけではなかなか人は集まらないので、産技研の職員が知っている先生方にもお願いしている。今年の反省を踏まえ、再来年の4月に向けた取組みも始めた。

#### ・ **任期付き研究員の任期は何年で、また雇用期間終了後、引き続き任用することも考えているのか？**

⇒ 任期は3年である。良い人であれば、期間終了後に選考を経て、期間の定めのない職員に採用することも考えている。

#### ・ **事業化支援と研究開発の職員の間で意識・意欲の面で違いが出たりすることはないのか？**

⇒ 研究開発部門の職員には、研究業務だけではなく、事業化支援業務もやってもらっている。また、採用においても、研究だけでなく中小企業支援を希望している人を選んでいることから、そういった区別のようなものはないと思っている。

(2) 産業技術研究センターの各事業年度に係る業務実績評価（年度評価）の考え方について  
事務局より産業技術研究センターの各事業年度に係る業務実績評価（年度評価）の考  
え方について説明。

【質疑応答・委員意見】 ※太字ゴシックが委員意見

・ **中期目標、中期計画そのものの見直しの視点はどこかに入っているか？**

⇒ 項目別評価の中にそういった視点は入れていない。期の途中で目標・計画の変更は可能なので、必要があればご意見も踏まえて見直しを行うことになると考えている。また、年度計画で対応できる部分があれば次の年度計画に取り入れていくことも考えられる。

・ **中期目標、中期計画に書かれている項目でも、法人の確固たる方針のもとでやる必要がないと判断したためやらなかったということがあった場合、それをどのように評価しているのか？**

⇒ 実績報告やヒアリングの場で法人側の判断があったことを表明してもらい、それをもとに評価委員会で判断することになる。

・ **項目別評価にどういうウエート付けをして最終評価にするのか？**

⇒ ウエート付けも検討したが非常に難しいと考えている。項目別評価をつけた上で、特記事項なども参考にしながら、全体評価は委員の先生方の判断という形になると考えている。

・ **年度計画の項目を16項目にくくる段階で一定のウエート付けが行われていると考えることもできる。くくった16項目をベースに全体を評価するので、それが意味ウエート付けをして最終評価を行ったとも言えるのではないか。**

・ **中期計画で数値目標を掲げている部分について、例えば技術相談と外部資金では変動要素の有無とその大きさが違い、それを両方同じような形で評価するのは難しいような気がするが？**

⇒ 技術相談、外部資金等数値目標があるものについては、実績数字が良かったのか悪かったのかだけでは判断できないと考えている。特殊事情があれば実績報告書に記載し、努力した面、頑張ったところを考慮して評価していくという形になると考えている。

- ・ **実際一年やった後にいろんなことが出れば意見交換し、違った視点も追加するなど、評価方針・方法等については柔軟に対応してほしい。**

⇒ 今回の基本方針・方法で今後もこのまま進めていこうとは考えていない。来年も評価委員会でのご意見を参考にして見直しをしていきたいと考えている。
- ・ **法人倫理・社会的責任の項目では、内部チェックのためにどのような体制を取っているかを評価することも必要である。**
- ・ **項目別評価を4段階にして全体評価を5段階にする理由は？**

⇒ 項目別評価は公立大学分科会と同様に4段階とし、計画に対して順調かどうかを判断するための中位を設けないこととしている。全体評価は評価結果を踏まえて役員報酬が決められることから、基準額に対応する中位を設ける必要があるため、5段階評価にしている。
- ・ **共同研究、製品化支援の中で成果事例という評価項目があるが、これは製品が開発できたということだけか？あるいはそれによって売り上げが上がって税金が増えたなど、そういうところまで見るのか？**

⇒ 長期的には事業をやった成果（アウトカム）、例えば会社の売り上げが上がりそれによって税金がどの位増えたかを把握・評価していくことが必要だと思うが、当面は製品が開発された、技術が確立したという途中レベルでの評価になると思う。
- ・ **期間中に一度実施すれば済むもの、毎年の累積で実績を見るものなど計画の内容によって評価も変わってくると思うが、中期計画全体に対する一年ごとの見方をどのように考えているか？**

⇒ ただ単に5年間で数字をクリアすればよいということではないと思う。どういう形で今後評価していくかは、もう少し検討が必要だと考えている。
- ・ **中期計画期間でのプロセス的な評価の見方を入れておかなければいけないと思う。また、環境が変わって予想以上に実績を上げることができるなら、目標値の変更を考えても良いと思う。**
- ・ **単年度だけではなく累積、累年の評価も考慮に入れた形で最終的に全体の評価をしていくのが望ましいと思う。**

⇒ 今後検討していく。